

ふくろう通信—第 6 号—

2018. 7. 28 発行



編集 近藤 栄人
広報委員会

RYLA 学友会の設立から 10 年が経ち、今年度新たに会長となることを楽しみにしておりました。学友会の始まりである RYLA セミナーをはじめ、学友会が関わる行事が増えてきました。また主催行事も行われるようになり、活動の幅の広がりを実感しております。

今年度は新たな試みも始まり、ワクワクの種をまき、更に楽しい学友会になっていくことを目標にしておりますので宜しくお願いいたします。

RYLA 学友会会長 奥田 裕



2018年度 2680地区 RYLA 学友会 会長方針

『ワクワクの種まき』

～また会いたくなる集まりへ～

～スケジュール管理、事務作業の効率化へ～

～誰でも携われる雰囲気へ～

◇◇純ちゃんの部屋◇◇

深川 純一 PDG (パストガバナー)

キャンプファイヤーの火、そしてマッチの火、何れも火というものは、私達の心を温かくしてくれるものであります。

「太古より人には火あり雉を焼く 如一」

私の若かりし日の一句であります。動物は火を焚くことは出来ません。人間だけが火を使うことが出来ます。人々は太古の昔から火に親しんできたのであります。火を囲みながら、或る時は暖をとり、或る時は語り合い、また或る時は歌い、踊ったのであります。これが本能であります。

そこで私は、この親睦というものを考えるとき、原始時代の人々に思いを馳せるのであります。原始時代の人々は、大自然の厳しい寒さから身を守るために、お互いの身体を寄せ合い、肌と肌を寄せ合って身体を温め合いました。そして仲良くなって、心が通い合ったのであります。これが親睦の始まりであります。やがて人々は、自分の温もりを相手に与えて、相手の温もりを自分に授かる、ということに気づきます。ここから相手に対する愛が始まり、奉仕の心が生まれたのであります。これが親睦の原始形態であります。したがって、親睦そのものの中に奉仕の要素があった、即ち、親睦と奉仕は一体のものであったのであります。

—— 伊丹 RC 勉強会 『親睦と奉仕の成り立ち』より抜粋——



◇◇今井鎮雄先生からのメッセージ◇◇



今井でございます。私がまだ若い頃に、このキャンプサイトを見つけてまいりまして、戦争直後でありますから、キャンプするなんてことは大変なことでしたけれども、ぜひ青少年の諸君達とキャンプをしたい。

私は神戸に住んでおりますけれども、神戸、兵庫県をあちこち捜しましたけど、いい所がないんです。40年も昔でしたからね。山もありましたし、まだ誰もいない所もたくさんあったんです。しかし、ずるずるとそれを捜して本当にいい所ないだろうか。今日は、諸君達はリーダーですから、自分で考えてみて下さい。一体、キャンプをするのにはどういう所がいいのか考えてみる。これも一つここでやっている理由なんですね。そうした時に、やってる間中、だれにも妨げられないで自然とふれる場所がないだろうか。ここでやってたら隣の方から暴走族がとんで来るようでは、落ちついてキャンプできないじゃないか。ということになったら、そこはあまり具合がよくない。あるいはそこにあったら、虫もよう出てきて、蚊も出てきて、そういうふうになっても具合が悪い。

自然と人間がふれあう場所、どこかないだろうかと思った時に、先ほどの話ではありませんけど、ここにやってまいりました。この島がまだ40年前ですから、何も無い所にまいりましたね、上陸用舟艇と言いまして、昔戦争が始まった時にそこから船が出て、敵に攻めていくという、そのような船がここに置いてあるんですね。そういう現場でありました。

私のお願いしたいことは、ここから帰ってくる時に、諸君達の視野を変えていただきたい。21世紀に生きる時の青年として、あるいはもう大人として、どんな視野を持って私達の世界をもういっぺんに持ってあなた方は行くのかということをお聞きしたいんです。

あなた方が新しい世界を作るために、あなた方が日頃まじわっている青少年に、どのような幻と夢を与えるリーダーになってくれますか。もしも、そのような人達が育てくださるならば、私達の次の時代を本当に世界が一つになるような世界になれるだろう。私達ロータリオンは、そのことを願って、今日ここに来て、みなさんと一緒にこうして交わっていきたく願っているんです。どうぞこの一つ時間を、あなた方の若い人生の中の大事な一コマにさせていただきたい。

—— 『第9回 RYLA セミナー報告書』より抜粋——

NEW



第40回 RYLA セミナー & JAPAN RYLA セミナーが開催されました。
今回参加された受講生とカウンセラーの感想を報告します。

◆第40回 RYLA セミナー修了生 洲上 理恵◆

RYLA セミナーに参加する前は自分の向かう方向にイマイチ自信が持てませんでした。間違っていないだろうという気持ちは持っていましたが、暗中模索という言葉がぴったり合うような状態でした。

私は他者と比べての相対的価値より、内的な絶対的価値を重んじたいと考えていて、それを追求することで私自身も周囲も幸せになれるかな、と考えていました。しかし、中々カテゴライズできない様は周囲から誤解されることも多く、強い気持ちではいるものの傷つくことも多くありました。

そんな中、このRYLA セミナーに参加しました。自身を信じて道を切り開いてこられた諸先輩方の講話や班員との議論から生じる一つ一つの現象を感じる毎にそれが間違っただけでなく、むしろもっと精査して求めていくべきものなのだ、と背中を押してもらうことができました。ありがとうございました。



◆JAPAN RYLA セミナー修了生 松村 紗希◆

私は今回、JAPAN RYLA セミナーに参加し、セミナーに参加するのは初めてで不安でしたが4日間を終えた後はとても充実した日々であったと感じています。セミナーの中では、いくつかの講義を受けました。今回のセミナーの「地域に生きる、世界に生きる」をテーマに世界でのことまた、地域のことについて講義を受け、自分自身がこれからどのように行動していきたいかを考えることが出来ました。その他にも思索の時間というものがありました。1時間、1人で考える時間があり、普段の生活の中で何かをゆっくりと考えるという事はないので、とても貴重な時間になりました。また、バズセッションでは課題を班員と話し合い、その結論をフォーラムにて発表しました。他の班の発表では全く違う意見や結論がありとても勉強になりました。この4日間多くの事を学びたくさんの方と交流する事ができ、今後の生活に生かしていきたいと思えます。



◆第40回 RYLA セミナー カウンセラー・相生 RC 富田 裕子◆

私は今回で3回目のカウンセラーを務めさせて頂きましたが、毎回初日は不安と緊張の中で始まります。二十歳以上とはいえ、年齢もバラバラで、出身地、職業、背景、とにかく何もかもが違う11名が突然、顔を合わせ3泊4日も寝食を共にする訳ですから、緊張しないはずありません。中には、勤務先から「行って来い」とだけ言われ不承不承、余島にわたって来た人もいました。しかし、初日、2日目と共にカリキュラムを乗り越えていくうちに受講生の皆さんの顔つきが生き生きとしていくのを目の当たりにします。

4日間を過ぎて余島を後にする時には、誰もが1人として例外なく、生まれ変わったかのような清々しい気持ちになっていたはず。この素敵な変化こそが、当地区 RYLA セミナーの醍醐味と言えましょう。



最後に、私自身はカウンセラーという立場での参加ではありましたが、班のメンバーの一人として班に参加し、一緒に成長できたと自覚しています。素敵な変化をありがとうございました。

◆会長任期終了にあたって◆

昨年度(2017-2018)を持ちまして、わたくし倉本勉は、RYLA 学友会会長任期終了となりました。およそ10年間にわたり、会長を務めさせていただいたのは、ロータリアンの方々をはじめ、学友会のみなさまのご支援とご協力をいただいたおかげであると、こころより感謝申し上げます。

学友会創立当初、前途多難であった船出も、ようやく順風を得ることが出来、昨年は、めでたく学友会創立10周年の記念行事を無事盛大に行うことができました。今後は、新しい会長のもと、RYLA 学友会がますます発展してゆくものと確信しております。みなさまの変わらぬご支援とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。



RYLA 学友会 直前会長 倉本 勉

今後の予定

- ◆9/23(日) 総会・つどい
- ◆10/27(土)~28(日)学友会セミナー：RYLA キャラバンー神山編ー
- ◆11/3(土)~2(日)HYOGO フェスタ
- ◆2/3(日) 第11回全国 RYLA 研究会
- ◆3/23(土) ロータリーファミリーの集い



[RYLA2680](https://www.facebook.com/Ryla2680)



ホームページ

<http://ryla2680.jp/>

